《提案２》

社会的な問題が明解になる手立て(児童生徒が話したくなる必然性を感じる手立て)

・社会的な問題とは，児童が意思決定する対象となる問題のことです。他の問題等と区別するために「社会的な問題」として表現しています。社会的な価値が対立するような問題や社会で論争となっている問題などです。例えば，今回の場合「国家の利益を優先すべき」と「国民の生活を大切にすべき」が対立している問題です。他にも，「新しい文化を取り入れるべき」と「自分たちらしさを大切にすべき」や「個人の権利」と「社会の利益」などが考えられます。児童生徒が，これらの問題を明確に理解することで，話し合う必然性が生み出されると考えています。

・問題が明解になるとは，上記のような社会的な問題の対立点が明らかになることです。このための手立てを２点提案します。

手立て①　社会的な問題に出会わせる手立て

○児童生徒の思考(疑問や葛藤など)を促す教師の問い

・明治政府の改革や政策について，よかった点または問題点と判断した根拠(データ，理由付け)から社会的な価値を考えさせ，その価値が対立していることに気付かせる。(何が問題かを明らかにする。)

よい(よかった)点と問題点の両面を考える必要性を問う発問として，「困っている人(こと)は無視していいのか」や「気になる感想をもった友達がいるんだけど聞きたいか」などが考えられる。
社会的な価値について考えさせる発問として，「これは，誰にとってよいこと(よかった)のか」や「何がよくなる(なった)のか」などが考えられる。
根拠を問う発問として，「どうしてそう考えたのかもう少し話して」や「教科書(資料)のどれを見てそう考えたのか」などが考えられる。

これらの発問は，何がどのように問題かを発見させることを目的とし，児童生徒の反応に応じて適切に行いたい。

○思考・判断・表現を支援する板書やワークシートの工夫

・児童生徒が，対立点を視覚的に気付くことができるように表にまとめていくこと，調査した歴史的事象について，目的や内容，よかった点，問題点などの視点に沿って比較できるようにして整理することが考えられる【図２，図３参照】。この際，板書とワークシートをできる限り同じにし，児童生徒の思考・判断や理解を支援したい。

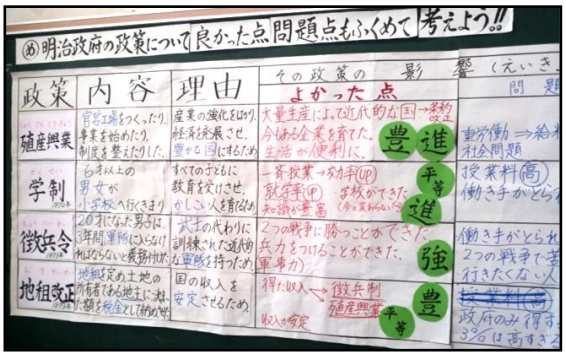


図２　表にしてまとめる板書の例

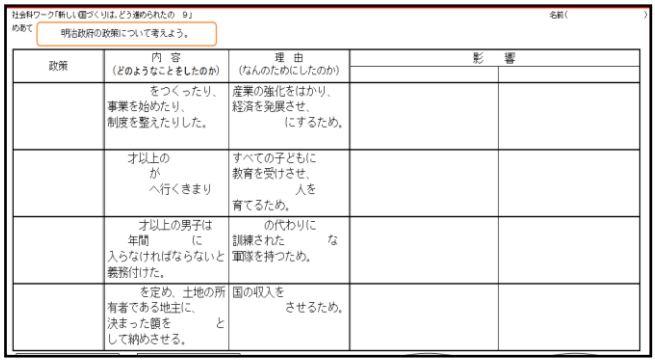


図３　表にしてまとめるワークシートの例

手立て②　討論すべき論題を見出させる手立て

〇児童生徒の思考(疑問や葛藤など)を促す教師の問い

・社会的な問題に出会わせる手立てにより気付かせた社会的な価値の対立について，どちらを支持するかを問う。(意思決定を迫る。)

　意思決定を迫る問い掛けとして,「賛成か反対か」,「より大切だと考えるか」,「優先すべきか」などが考えられる。また，児童生徒の経験に応じて,「どちらが大切だと考えるか」や「どれが効果があるか」など対立点を社会的な価値として理解させる発問から,「より大切なのは？」や「優先すべきは？」など討論すべき論題へと迫る発問へと段階的に問う必要があると考える。

・手立て①と同様に，今後の討論が勝ち負けを競うことにならないよう根拠(データや理由付けの違いが討論時の論点となる。)を論点に据え考えさせたい。

　根拠を問う発問として,「どうしてそう考えたのかもう少し話して」や「教科書(資料)のどれを見てそう考えたのか」などが考えられる。

〇児童の発言や記述と評価の工夫

・本時のめあてを示し，判断するめやす(判定基準)を児童生徒と共有しておくことで，児童生徒の意思決定とこの根拠を述べる必要性や述べ方など考えたことを表現する表現力を高めるための技能の指導ができると考えている。これにより，指導と評価が一体化した授業となり，児童生徒にとっても，本時の目的を自覚して取り組むことができる。

・討論時の論点は，根拠(データや理由付け)の違いにより明らかになる。このため，本時の途中または振り返りで,論題に基づいて児童生徒の現段階での考えを表出させたい。つまり，1回目の意思決定をさせる。この際，根拠を問うことが大切であると考える。これにより，児童生徒の考えが論理的になり，表出(発言や発表，見せることなど)に向けて自信をもつようになる。これは，次時以降の学習において考えが深まったことを児童生徒に自覚させることにも活用できると考える。学ぶ価値を捉え支える上でも表現させておきたい。

・児童生徒の中でも支持する価値が違うことに気付かせる。

　本時の最後に挙手させたり，典型的な例として意図的に数名を発表させたりする。ただし，この目的は，児童生徒に「わたしと違う考えの友達がいる」ことに気付かせ,「友達の考えを知りたい，話してみたい」と思わせることである。したがって，教師が内容について善し悪しを評価してはいけない。評価するのは，根拠の述べ方であると考える。

以下は，公開授業１の指導案から《提案２》に基づいた本時の授業展開とその様子について掲載しています。

平成25年10月18日（金）　有田町立大山小学校　授業者　教諭　大宅　武男（研究委員）

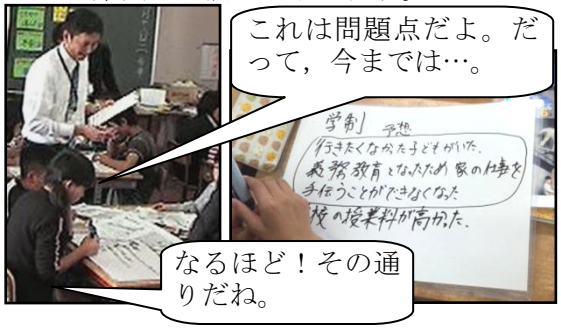
１　単元名　第６学年「新しい国づくりは，どう進められたの」（日本文教出版）

※２～５については，提案１に掲載している。

６　本時の目標

明治政府の諸政策について，様々な立場や視点から見たよかった点に加え，問題点も踏まえて総合的に考え，自分なりに評価することができるようにする。　（社会的な思考・判断・表現）

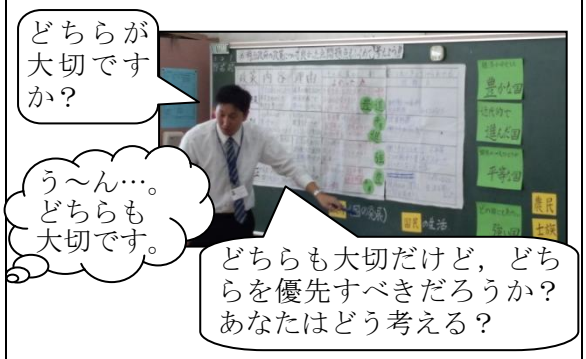
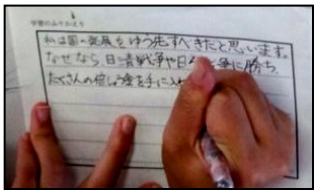
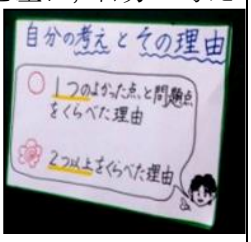
７　展開（全11時間　本時10/11）

学　習　活　動	教師の働きかけ（○）と評価【　】
１　前時に行った明治政府の政策のよかった点を振り返る。 	○前時の振り返り（明治政府の改革や政策について，よかった点をまとめて考えたこと）を数名の児童に発表させる。この際，不満をもったり不利益を被ったりした人の立場に触れている児童を意図的に取り上げることで，問題点の視点に気付かせる。 ○児童の振り返りの根拠として，全てがよいことばかりに見える近代化政策にも，一揆や反乱などが起きたデータを見せ，本時の学習に対する意欲付けを行い，本時のめあてを設定する。
めあて　明治政府の政策についてよかった点（や問題点もふくめて）考えよう!!!	※よかった点は前時に学習していたため，前時のめあてに（　）内が付け加わり，本時のめあてとなる。
２　明治政府の主要な政策について，問題点を調べ，考える。 ・小集団での調査活動を行う。  ・学級全体で調査したことを確認する。	○それぞれの政策の問題点を深く考える時間を確保するため，グループごとに１つの政策の問題点を調べるように割り当てる。また，これにより，学級全体で確認する必然性を設定し，各グループでの調査に責任をもたせ，意欲付けを行う。 ○当初は，教科書や資料集だけで調査活動させる。調査が行き詰まるグループには，時間を置いて手掛かりになる資料を配付する。 ○グループで情報を共有できるように，記録係が確認しながら，まとめていくように指示する。

めあて　明治政府の政策について，よかった点，問題点をふくめて考えよう。

内が発表した内容

政策	内　容（どのようなことをしたのか）	理　由（なんのためにしたのか）	影響 よかった点	影響 問題点
徴兵令	20 才になった男子は 3 年間軍隊にはいらなければならないと義務付けた。	武士のかわりに訓練された近代的な軍隊を持つため。 強い国　平等な国	日清・日露戦争に勝つことができた。 強い兵力をもつことができた。	農民の働き手をとられて不満が出た。 戦争に行った人は，苦しんだ人達がいた。 （日本だけじゃなく，朝鮮や中国，ロシアの人達も）　お金を払えば免除される
地租改正	地租を定め、土地の所有者である地主に、決まった額を税金として納めさせた。	国の収入を安定させるため。 豊かな国　平等な国	安定した収入（税金）を得ることができた。 得た収入を使って，兵力や殖産興業を発展させることができた。	不作になるとお金が払えない。売るお米がないから。農民の生活が苦しくなる。 氏族や農民は収入が安定しないから払えない。
殖産興業	官営工場をつくったり、事業を始めたり、制度を整えたりした。	近代的な産業（機械による大量生産）をさかんにするため。 豊かな国　進んだ国	機械を使った大量生産で近代的な国になった。 今に続いている。 生活が便利になった。（鉄道）	公害などの社会問題が増えた。 事故が多く命を落とす人達がいた。 重労働なのに，給料が安い。
学　制	６才以上の男女が学校へ行くきまり	すべての子どもに教育を受けさせるため。 豊かな国　平等な国	個別から一斉授業 就学率が 100%近くになった。 知識が豊富になった。夏目漱石や野口英世など ２４０００校の小学校がった。	授業料が高い。払えない。 明治の初めは，無理矢理行かされて，働き手がとられてしまうことから行きたくなかった人がいるのではないか。

3　次時に明治政府の政策について討論を行うことを課題としてもつ。 ・社会的な問題を見出し，論題を作る。 国の発展 ⇔ 国民の生活  	○根拠に含まれる立場や視点(費用や時間，不平等さなど)を基に，それぞれの問題点を関連付ける。 ○よかった点や問題点について，「誰にとって」や「何に困るの」などと問い掛け，「国の発展を優先し，国民の生活に我慢を強いられた」ことを明らかにし，「国家の発展」と「国民の生活」で価値観が対立していることを理解させる。 ○「どちらが大切か？」から「どちらを優先すべきだと考えるか？」へ段階的に問うことで，国家にとって，国民にとっての価値付けから，価値判断に迫るようにする。これにより，どちらを選んでも価値があることを捉えさせ，自分の意思決定へと誘う。
・振り返りのポイントを基に，自分の考えを書く。   振り返りのポイント	○振り返りとして，明治政府の政策について，国の利益と国民の生活のどちらを優先すべきだったかを，よかった点や問題点も踏まえて書かせる。【評価】 ○考えが違う児童を指名し，結論(○○を優先すべき)だけを述べさせ，話し合う必要性を感じさせることで，論題へと導き次時への意欲付けとする。
論題　明治政府は国の利益と国民の生活のどちらを優先すべきだったのか。	

8　本時の評価

単元の評価規準	明治政府の目指した国づくりと影響を受けた国民の生活とを比較したり，総合したりして，過去の出来事を現在や未来の発展に生かすことを考え，適切に表現している。		
本時の評価規準	明治政府の諸政策について，様々な立場や視点から見たよかった点に加え，問題点も踏まえて総合的に考え，自分なりの評価を適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断するめやす)	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
	複数の政策のよかった点と問題点を踏まえ，明治政府の改革や政策を評価し，根拠を示して記述している。	１つの政策のよかった点と問題点を踏まえ，明治政府の改革や政策を評価し，根拠を示して記述している。	(B)に達しない児童
→「努力を要する」状況と判断した児童に対する支援策		→他の政策からも考えることができないか声かけを行う。	→板書やワークシートを参考に社会的な問題について，一緒に振り返り，判断させ，記述を促す。
評価方法	ワークシートの記述		